

審議会等議事概要

第8回 滝川市子ども・子育て会議 議事概要

日 時	平成30年12月18日（火曜日）午後1時30分～午後2時25分
開催場所	滝川市保健センター1階会議室
出席者	<p>田代雄一委員、平川泰之委員、井上久美子委員、猪股旬雄委員、梅津俊一委員、曾根英司委員、種田貴志子委員、椿坂幸夫委員、細矢千鶴委員、堀田秀樹委員、山内祐子委員、山下幸二委員、山本典子委員</p> <p>（欠席 榎本拓真委員、船奥保委員、芳村元悟委員）</p> <p>事務局：國嶋保健福祉部長、柳子育て応援課長、米澤同主幹、井谷同課子育て支援係長、石黒同課こども福祉係長、森健康づくり課長、杉山学校運営課長</p>
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 挨拶</p> <p>・保健福祉部長からよろしくお願ひしたい旨の挨拶があった。</p> <p>3 議 事</p> <p>(1)ニーズ調査の実施について</p> <p>事務局) 資料1～4に基づき説明</p> <p>委員) ニーズ調査の内容が制度を作る視点で設定されていると感じる。こういうことがあれば長く働けるといような雇用主側への要望を何う設問を加えられないか。</p> <p>事務局) 国が示した調査票イメージにおいて、調査項目の分量がかなり多い状況ではあるが、他の事例も参考にして、独自設問として加えることで検討したい。</p> <p>(2)平成30年度の取組について</p> <p>事務局) 資料5に基づき「子育て世代包括支援センター」、資料6に基づき「二の坂保育所の建替」、資料7及び口頭にて「子育て支援センター事業」、資料8に基づき「子育て講演会」について説明</p> <p>※子育て支援センター事業の口頭説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターでは、これまでおもちゃで遊んだり、親子で交流、保育士に子育て相談を行う「おもちゃライブラリー」、センターへ来られない方のために各地域のコミュニティセンターで行う「地域訪問」、託児を行い、保護者のリフレッシュも兼ねた「子育て講座」を実施。 ・子育て世代包括支援センター開設も踏まえ、新たな取組みとして、①11月30日転入者を対象に、交流や知らないまちでの孤立感解消も目的とした「ようこそたきかわへ」、②1月30日これまでセンターでは食事できませんでしたが、昼食を持ち寄り親子で交流する「にこにこランチ」、③2月16日土曜日もセンターを開けて、普段来れない方や父親の参加も促す「土曜日の広場開放」を進めていく。 <p>(3)その他について</p> <p>事務局) 資料9に基づき「幼児教育の無償化」について説明。また、第7回会議の猪股委員の「保護者が育児休業の延長を希望するときに、保育所に入所できないことを理由することがあり、事業主からすると実態は違うのではないか感じることもある」と</p>

いう意見について、滝川市の状況について口頭で次の通り報告した。

- ・滝川市では保護者が育児休業の延長のために証明書を求めた例はなく、1人の保育士に対する児童数の基準などから、その入所したい児童の年齢枠でこれ以上入所できないといったケースがあるため、復帰する事業所と調整していただき、育児延長が可能な場合に証明書を発行している。
- ・都市部では、あえて人気の高い保育所に申込み、落選を狙って育児休業を延長しようとするケースがあるということで、行政の事務的負担、本来入所を希望している人が不利益を被っているとして、今年5月末、大阪市を含む32自治体が育児休業の延長に係る制度改正を国に要望している。
- ・現在、内閣府の地方分権改革有識者会議で議論され、年内に閣議決定、来年度から改善案を運用と報道されている。改善案の方向性としては、入所申し込み書に、直ちに復職希望か、落選の場合は育児延長可能を確認するチェック欄を設けたり、証明書に入所辞退や落選の経過を書くようにして、ハローワークの育児給付金の審査で確認するような手続きを検討しているとされている。

委員) 札幌市で無償化になると入所申込みが殺到して保育所入所が難しくなるため、駆け込み入所の動きが見られると聞いている。滝川市でも来年度からの入所が困難になるような駆け込みは見られるのか。

事務局) 札幌市も地区によりばらつきがあると思うが、滝川ではそういった気配は見られない。情報収集に努めたい。

委員) 市内の障がい児が市外の保育所等を利用する場合も無償化の対象になるのか。また、障がい児が保育所を利用するための基準はあるのか。また、医療的な対応が必要なケースの対応はどのように考えているか。

事務局) 広域利用の制度もあり無償化は適用される。保育に係る経費は行政間で対応することになる。障がい児保育では療育手帳保有などの条件があるが、障がいや病気のレベルの違いもあり、現場の保育士の意見も聞いて入所の判断をしている。医療的ケアが必要なケースについては、近郊の保育所で受け入れた例はなく、重症児の通園事業所の対応などを参考にして、今後備えて情報収集し検討していきたい。

委員) ニーズ調査で教育・保育の受け皿の量を求めていくが、発達支援が必要なお子さんが増えている中で、幼稚園教諭や保育士が不足し現場で苦勞している。地元の短大を卒業しても市内就職は皆無であり、人材確保に向けて、住宅手当を創設するとか、考えていく必要があるのではないか。

事務局) 今後の取組については、来年度の計画策定の中で検討していく。ご意見として承りたい。

4 その他

- ・次回会議は、ニーズ調査の集計結果と、30年度の取組報告を内容に3月中旬以降に開催する。期日については、会長と調整し案内する。
- ・来年度は、第2期計画策定のため、会議開催回数が例年より多くなる見込み。平成26年度と同様の4回程度になると思われる。第1期計画のフォローアップ、子育て資源の現状の把握、ニーズ調査に基づく教育・保育の給付や地域子ども・子育て支援事業の量の見込みを基に、委員の皆様のご意見をいただき第2期計画をまとめ

	<p>ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員は、所属団体から推薦いただいているが、団体の役員交代の場合は、次の委員になられる方の推薦・同意書をいただき変更する手続きを取るので、よろしく願いしたい。会議の内容等については、事務局から経過を含め説明し、スムーズに引き継げるように対応する。 ・議事録内容を確認する委員として、椿坂委員に選出した。 <p>5 閉会</p>
会議資料	資料 第8回滝川市子ども・子育て会議次第・議案資料